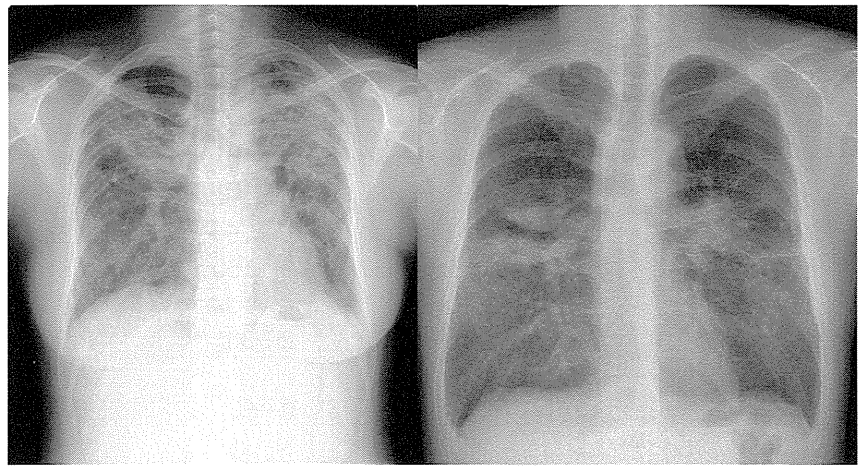
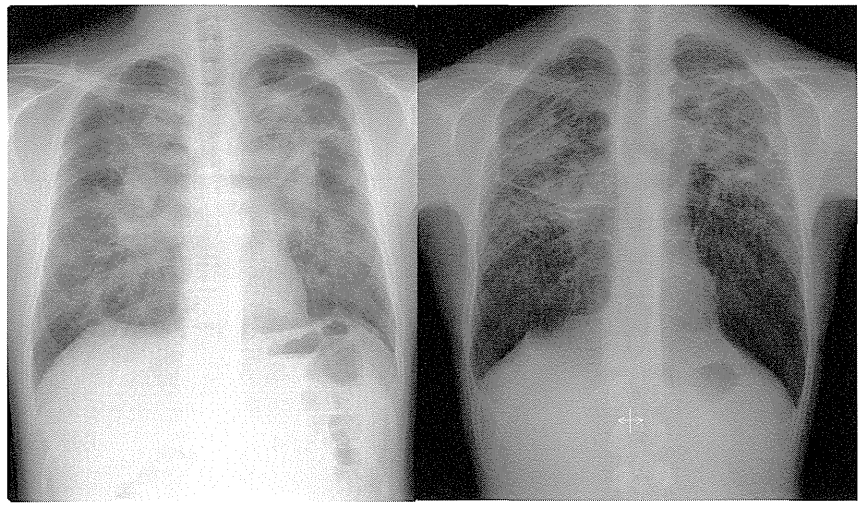
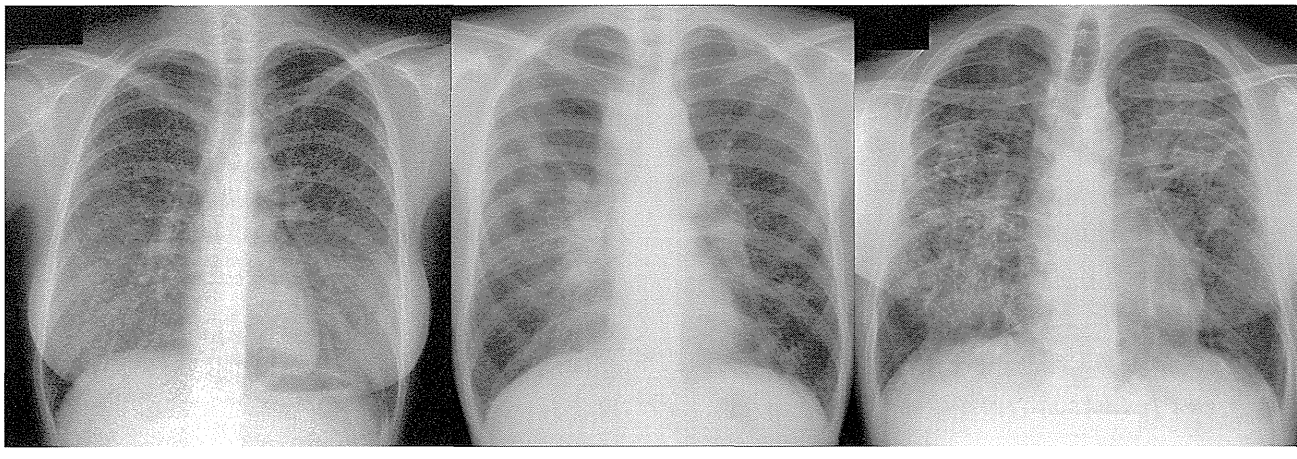


症例１：41歳女性　　症例４：33歳男性



症例６：44歳男性　　症例７：36歳男性

図1: 浸潤影を主体とする症例の胸部レントゲン



症例8：32歳女性　　症例１３：30歳男性　　症例１４：35歳男性

図2: 結節影・斑状影を主体とする症例の胸部レントゲン

表2: 治療経過

No.	維持量到達まで	画像効果	再燃	再燃回数	維持量到達から再燃まで	再燃前後のPSL投与量(mg)	観察期間
1	10ケ月	+	+	2	9ケ月	3→5	6.9 年
2	11ケ月	+	+	1	50ケ月	0→10	5.9 年
3	11ケ月	+	+	2	4ケ月	3→15	4.3 年
4	10ケ月	+	+	6	1ケ月	5→15	4.3 年
5	12ケ月	+	+	1	16ケ月	5→15	6.9 年
6	10ケ月	+	+	3	30ケ月	4→15	6.8 年
7	11ケ月	+	+	4	6ケ月	2→30	6.5 年
8	8ケ月	++	-	0			7.6 年
9	16ケ月	+	+	2	12ケ月	0→5	7.7 年
10	10ケ月	+	+	1	2ケ月	5→15	1.8 年
11	11ケ月	++	+	1	8ケ月	5→15	6.6 年
12	7ケ月	+	-	0			7.1 年
13	12ケ月	++	-	0			12.1 年
14	25ケ月	+	+	1	16ケ月	5→20	22.6 年

表3: 再燃を繰り返した症例

No.	初回再燃		再燃回数	2回目以降の再燃前のPSL投与量(mg)	観察期間
	維持量到達から再燃まで	再燃前後のPSL投与量(mg)			
1	9ケ月	3→5	2	0	6.9 年
3	4ケ月	3→15	2	5	4.3 年
4	1ケ月	5→15	6	5, 0, 5, 5, 6	4.3 年
6	10ケ月	4→15	3	2, 5	6.8 年
7	11ケ月	2→30	4	5, 8, 4	6.5 年
9	16ケ月	0→5	2	0	7.7 年

前治療として吸入ステロイドや短期間の経口ステロイド投与，メソトレキセートの投与などがあった．短期間の経口ステロイドで治療効果が不十分な症例が十分療法を導入されている．サルコイドーシスと診断されてから十分療法導入までの期間は4カ月から15年までばらついており，両群に一定の傾向は見られなかった．呼吸機能障害や呼吸器症状は，浸潤影主体の群の方がより悪い傾向にあった．

浸潤影主体の症例は図1に示したような画像で，肺門部から両側に広がる上肺野に強い浸潤影及び収縮傾向を認める．

結節影・斑状影主体の症例は図2に示したような画像で，いずれも明らかな収縮傾向は示していない．

治療経過を表2に示す．

プロトコル通りの減量法であれば，維持量のPSL5mgに到達するまでは10カ月となるが，経過や患者の希望で少しばらつきがあった．別の視点から考えると，全ての患者が維持量までは再燃することなく到達できていた．画像所見は全員が改善を見せていたが，++で表している異常所見が消失するほどの改善を得た症例は，結節影・斑状影を主体とする群にのみ認められた．

十分療法を施行しても，多くの症例で再燃してしまうことは避けられなかった．特に浸潤影を主体とする群では全員が再燃しており，再燃を繰り返す回数も多かった．PSL5mg/日の維持量に到達してから再燃してステロイドを増量するまでの期間に一定の傾向は見られなかった．観察期間は中央値が7年程度であり，長期にわたって観察している．

再燃を繰り返した症例を抜粋して表3に示す．

再燃を繰り返す症例は浸潤影を主体とする群の方が多かった．PSL10mg/日以上を投与中に再燃する

表4: メソトレキセートを使用した症例

No.	投与タイミング			投与前PSL	投与期間(月)	投与後PSL	効果
1	2	回目の再燃後	4ヶ月	pulse	14	pulse	mPSL 125mgのミニパルスを行っていたが、ミニパルスもMTXも効果なし
2	1		5ヶ月	7	5(投与中)	2	改善している
3	2		0ヶ月	15	9	6	当初有効であったが4ヶ月投与後から無効
4	3		0ヶ月	10	8	5	少し改善した
4	5		5ヶ月	8	5	20	不変、投与中に再燃し中止
6	2		0ヶ月	10	11	5	画像は不変、ス剤を減量できた
7	3		14ヶ月	5	5	5	不変
7	4		0ヶ月	5	12	5	少し改善した
9	2		18ヶ月	0	3	0	ス剤忌避のため投与したが不変
10	1		0ヶ月	15	7	5	咳嗽が減った
14	1		66ヶ月	5	16	5	不変

症例は見られなかった.

再燃後にメソトレキセートを併用した症例を抜粋して表4に示す.

メソトレキセートは9症例に対してのべ11回，特に再燃を繰り返す症例に対しての使用経験があるが，開始にあたっての基準や投与量は特に定めておらず，担当医の判断としている．メソトレキセートの有効性を定義するのは困難であるが，無効であり中止とした例よりも，病勢の改善やステロイド減量に成功して継続投与となった例が多く，有効例は56%と判断した．Baughmanらは有効率を3分の2程度と報告しており，これに近似している(Clin Chest Med 29 (2008) 533-548)

アザチオプリンは2症例に対して使用経験があり，メソトレキセートは無効であったがアザチオプリンに切り替えてから臨床症状の改善を得た症例もあった.

D. 結論・考察

十分療法を施行した14例は，全症例で画像所見や臨床症状の改善を認め，維持量のPSL5mgまでは再燃なしに減量することができた．臨床的に悪化傾向にある症例や短期間のステロイド投与で再燃を繰り返す症例には積極的に用いてもよい治療法であると考えられる.

維持量到達後の再燃は多くの患者で免れなかったが，浸潤影を主体とする症例では再燃率や再燃回数が多く，対して結節影・斑状影を主体とする症例では再燃してもコントロールしやすい傾向にあった．浸潤・収縮を示す症例は, PSL10mg以下でさらにゆっくりと減量するべきであろう.

再燃後は免疫抑制剤も併用しており，効果は56%に認められた．メソトレキセートやアザチオプリンはまだわが国では保険適応になっていないが，steroid-sparing agentとして，①はじめから少量ステロイド＋免疫抑制剤，あるいは②従来の減量方法に免疫抑制剤を加える，という治療方法を考えていくべきであろう.

E. 研究発表

1. 論文発表
該当なし.
2. 学会発表
第32回日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会総会にて発表した.

F. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし.

C. びまん性汎細気管支炎
閉塞性細気管支炎

BO・DPB部門(長谷川好規)

びまん性汎細気管支炎・閉塞性細気管支炎　部門報告

第2回閉塞性細気管支炎全国調査研究
—個別症例検討会—

長谷川　好規，橋本　直純

これまで世界的に見ても閉塞性細気管支炎症例を集積した研究は限られており，診断の手引きも存在しない．我が国においては，いち早くびまん性肺疾患調査研究班において，2004年に我が国初の全国調査を実施した．しかし，診断が困難であること，疾患概念が呼吸器内科専門医においてさえも普及していないことから，前回調査では，病態・診断基準を示すに足りる情報解析が出来なかった．昨年度における部門の活動として，2004年以降に診断された閉塞性細気管支炎症例の第2回全国調査(一次アンケート)を実施した．これを受けて本年度は，一次アンケートに対する2次調査として病理診断が得られたと回答された症例を中心に，個別症例検討会を開始した．本研究は，閉塞性細気管支炎症例の我が国の病態を明らかにする基礎となる情報となることが考えられる．

Study group of diffuse panbronchiolitis and bronchiolitis obliterans
The second nation-wide case search for constrictive bronchiolitis obliterans
- secondary case survey-

Yoshinori Hasegawa, Naozumi Hashimoto
Department of Respiratory Medicine,
Nagoya University Graduate School of Medicine, Japan

There have been few reports for the nation-wide survey of bronchiolitis obliterans (BO) cases, and neither the guidance booklet for the diagnosis of BO. This study group conducted the first nation-wide survey for constrictive type of BO in 2003. The report in 2004 showed that only 23 cases were collected in detail review, which were pathologically diagnosed by surgical lung biopsy. The report indicated that this rare condition causes diagnostic difficulty by simulating other airway obstructive diseases. We conducted the second-nation wide survey for constrictive type of BO in 2011. Cases were surveyed from April 2011 through May 2011 at 1815 hospitals, and 93 cases were diagnosed pathologically. Sixty institutes were reported for accepting to collect further information. Therefore, we started to collect detail information as a secondary case reviewing. Case reviewing was held two times this year, and eight cases were reviewed by chest radiologists, chest pathologists, and chest clinicians. We will continue the case reviewing and summarize the definitive cases of BO as a guidance booklet for the diagnosis of BO.

研究の背景

閉塞性細気管支炎は，特発性もしくは様々な原因により，細気管支領域における包囲性狭窄や細気管支内腔の閉塞をきたす疾患である．最終的に細気管支の不可逆的閉塞をきたし呼吸不全となり，著しく日常生活を損なう疾患である．稀な疾患と考えられていたが，骨髄移植や心肺移植などの移植医療に伴う閉塞性細気管支炎の合併が報告され，新たに注目を集めている疾患である．病因は不明であり，診断は困難である．確立された治療法はなく，予後不良の疾患である．以上の背景から，これまで世界的に見ても閉塞性細気管支炎症例を集積した研究は限られており，診断の手引きも存在しない．我が国においては，いち早く厚生科学研究費補助金(特定疾患対策研究事業：びまん性肺疾患調査研究班)において，2003年～2004年に我が国初のアンケート全国調査を実施した．また，厚生科学研究費補助金により原因探索のため動物モデルや細胞を用いた研究を推進してきた．しかし，病理組織においても診断が困難であること，疾患概念が呼吸器内科専門医においても普及していないことから，アンケート調査では，病態・診断基準を示すに足りる情報解析が出来なかった．本研究課題では，閉塞性細気管支炎の診断の手引きとなる情報収集を目的として全国から症例を集積し，専門家による複数の臨床医・画像診断医・病理医からなるチームによる詳細な症例解析を実施する．最終的に症例解析集を作成し，診断の手引きとすることを目的とする．

研究の目的

本研究は閉塞性細気管支炎の全国調査研究を実施することにより，我が国における本疾患の病態ならびにその実態を明らかにし，今後の閉塞性細気管支炎の病態・治療研究構築のための基礎データとすることを目的とする．本年度は，昨年度実施した一次アンケートに基づき，病理学的に確定診断されたと判断された症例を集積し，それぞれ複数の胸部レントゲン診断医，胸部を専門とする病理医，呼吸器内科医が一堂に会して個別症例検討会を実施する．

対象と方法

個別症例検討会

一次アンケートで回収したデータをもとに2次症例調査に協力が得られると回答された施設から症例を集積し，各症例の診断の妥当性，病理所見，画像所見について，専門家による合議検討会を開催する．

考察・結論

第1回個別症例検討会が平成24年6月16日日本医科大学にて開催され，第2回個別症例検討会が平成24年12月22日名古屋大学にて開催された．症例の内訳は，シェーグレン症候群に発症したBOの一例，特発性BOの症例に2回肺移植を行った一例，関節リウマチにおけるD-ペニシラミン内服によるBOの一例，骨髄移植後のBOとPAPが合併した一例，アマメシバ摂取による家族発症BO，関節リウマチ治療中に発症したBO，リンパ腫治療中に発症したBO，骨髄移植後に発症したBO疑いの一例が報告された．それぞれ，複数の胸部放射線診断医，病理医，呼吸器内科医が報告された情報に基づいて*Clinical-radiologic-pathologic* (*C-R-P*) diagnosis を実施した．その中で課題となったことは，自施設の病理にてBOと診断された症例とCPR診断が一致しないこと，また，自施設の病理にてBOと診断できなかった症例が，CPR診断で確定診断されることが経験され，本疾患の診断の難しさがわずかな症例検討においても明らかとなってきた．今後は，背景，発症時期，肺機能検査，VATS時期・部位などの臨床情報収集のためチェックリストを作成すること，および収集したCT画像および肺血流シンチなど画像集積システム，病理スライドのヴァーチャルスライド化による収集の枠組みを作り，症例集積を予定していきたい．

びまん性汎細気管支炎に関連する*PBMUCL1*のヒト気道上皮細胞における発現の検討

慶長　直人[1*]　土方美奈子[1]　松下　育美[1]　伊藤　秀幸[2]
本間　栄[3**]　田口　善夫[4*]　吾妻安良太[5**]　工藤　翔二[6]

びまん性汎細気管支炎 (DPB, diffuse panbronchiolitis)は，東アジア系集団にみられるHLA class I関連疾患である．6番染色体HLA領域のDPB疾患感受性候補領域の中には，我々がクローニングした2つの新規ムチン様遺伝子*PBMUCL1 (MUC22)*, *PBMUCL2* (Hijikata *et al*. Hum Genet 2011)と，*DPCR1*, *MUC21*のあわせて4つのムチン(様)遺伝子がクラスターを形成している．*PBMUCL1*には，DPBと関連する遺伝的多型が複数存在している．*PBMUCL1*の非同義置換を伴う単塩基多型および，ムチン特有のセリン・スレオニンを多く含むリピート配列部分をコードする中央の第3エクソンのVNTR (variable number of tandem repeat)を，ヨーロッパ系集団検体を用いてタイピングして日本人と比較したところ，多型のアリル頻度，推定ハプロタイプ構造及びその頻度ともに，日本人とヨーロッパ系集団では大きく異なることがわかった．また，*PBMUCL1*の遺伝子発現は，poly(I:C)刺激で強く誘導されるため，日本人の手術検体由来の初代培養ヒト気道上皮細胞30検体を用い，非刺激時およびpoly(I:C)刺激時の*PBMUCL1* mRNA発現量をリアルタイムRT/PCRによって検討した．その結果，日本人に特有な遺伝的多型ないしハプロタイプを有するもので，特に発現量が多いという結果は得られなかった．アジア人のDPB疾患感受性，抵抗性に関わる遺伝的多型は，アジア人固有のものである可能性が示唆されたが，遺伝的多型と蛋白機能の関連については，発現量の違いより，VNTRあるいはアミノ酸の置換，あるいはスプライシングの違い等の質的な違いを今後さらに検討する必要があると考えられた．

[1] 独立行政法人国立国際医療研究センター 研究所 呼吸器疾患研究部
[2] 独立行政法人国立国際医療研究センター病院 呼吸器外科
[3] 東邦大学 呼吸器内科
[4] 天理よろづ相談所病院 呼吸器内科
[5] 日本医科大学 内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門)
[6] 複十字病院
[*] びまん性肺疾患に関する調査研究班　研究協力者
[**] びまん性肺疾患に関する調査研究班　研究分担者

A. 研究目的

びまん性汎細気管支炎(DPB, diffuse panbronchiolitis)は，東アジア系集団にみられるHLA class I関連疾患である．日本人ではHLA-B54との関連が非常に強いことはいくつかの報告で確認されているのに対し(Sugiyama *et al*. ARRD 1990, Keicho *et al.* AJRCCM 1998)，韓国人ではHLA-B54との関連はなく，かわりにHLA-A11との関連が強いとされた(Park *et al*. AJRCCM 1999)．このことから，HLAそのものがDPBに関連しているのではなく，HLA-B遺伝子座とHLA-A遺伝子座の間にDPBの疾患感受性遺伝子が存在するという仮説がたてられ，マイクロサテライトマーカーなどの遺伝マーカーを用い，候補領域はおよそ*S*遺伝子から*TFIIH*遺伝子までの200kbまでせばめられた(Keicho *et al*. Am J Hum Genet 2000)．我々は候補領域内で新規遺伝子のクローニングを試み，2つのムチン遺伝子(*PBMUCL1*, *PBMUCL2*)をクローニングして報告した(Hijikata *et al*. Hum Genet 2011)．*PBMUCL1* は HUGO Gene Nomenclature Committee (HGNC)によりmucin22 (*MUC22*) という遺伝子名も与えられた．既に報告されている*DPCR1*遺伝子と*MUC21*遺伝子をあわせると，候補領域内は4つのムチン(様)遺伝子がクラスターを形成していた．*PBMUCL1 (MUC22)*には，DPBと関連する遺伝的多型が複数存在した他，polyinosinic-polycytidylic acid, poly(I:C)で遺伝子発現が強く誘導される性質を有していた．

DPBはヨーロッパ系集団では非常に稀であり，西欧諸国から報告された数少ないDPB症例のほとんどはアジア系移民の症例である．昨年度，我々は11番染色体のムチン遺伝子クラスター内の気道の主要な分泌型ムチンのひとつである*MUC5B*の遺伝的多型が，アジア人とヨーロッパ人で頻度が大きく異なることを報告したが，今年度，我々は*PBMUCL1* の遺伝的多型をヨーロッパ系集団健常検体を用いてタイピングし，日本人DPB患者と健常コントロールとの比較を行いつつ，ハプロタイプ構造の解析を行った．また，日本人手術検体から単離培養した初代培養気道上皮細胞30検体を用い，非刺激時，poly(I:C)刺激時の*PBMUCL1* のmRNA発現量を遺伝的多型とあわせて検討した．

B. 研究方法

(1) 日本人DPB患者92例，日本人健常コントロール98例のゲノムDNAを用いた．ヨーロッパ系集団の健常検体として，NIGMS Human Variation Panel (HD50CAU of Caucasian individuals - Coriell Institute for Medical Research, Camden, NJ) 50例を用いた．*PBMUCL1*のVNTR (variable number of tandem repeat)を有するexon 3(約4.6kb)を含むゲノム領域のPCR増幅は，Tks Gflex DNA Polymerase (TaKaRa Bio)とプライマー 5'- GAA TAC CAC AGC CTT CAC AAA AGG -3', 5'- CAG GGA AAT GAG GAT GAT AGC CCA -3'を用い (レファレンス配列にて増幅産物は7,022 bp)，PCR産物を0.5%アガロースゲルで電気泳動し，VNTRサイズを分けた．その他，exon3の5'端側の非同義置換を伴う単塩基多型(SNP)，exon4, 5のSNPをPCR増幅とシーケンス解析を行ってタイピングした．ハプロタイプ解析はHaploview4.2を用いて行った．

(2) 手術検体由来の初代培養ヒト気道上皮細胞30検体を培養し，poly(I:C) 100mg/mlで刺激を行い，24時間後に細胞を回収した．全RNAを抽出し，*PBMUCL1* mRNA発現量を exon 4内に設計した sense primer 5'- TAC AGC CCT GGG CTA TCA TCC TCA -3', exon 5内に設計したantisense primer 5'- TCA GTC CAT GGC CCA CTC CAT ATC -3' と SYBR Premix Ex Taq (TaKaRa Bio)を用いたリアルタイムPCRにて検討した．発現量の補正にはGAPDH遺伝子を用い，ΔΔCt法を使用した．初代培養細胞は，WakFlow HLAタイピング試薬HLA-BにてHLA-B遺伝子のタイピングを行った．

(倫理面への配慮)「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に準拠した当センターの遺伝子解析に関する倫理委員会の承認を受けている．

C. 研究結果

(1) *PBMUCL1* VNTR多型のヨーロッパ系集団でのタイピング

図1に示すように，*PBMUCL1* VNTR各アリル頻度は，ヨーロッパ系集団と日本人コントロール集団で異なっていた．特に，DPB抵抗性に関連してい

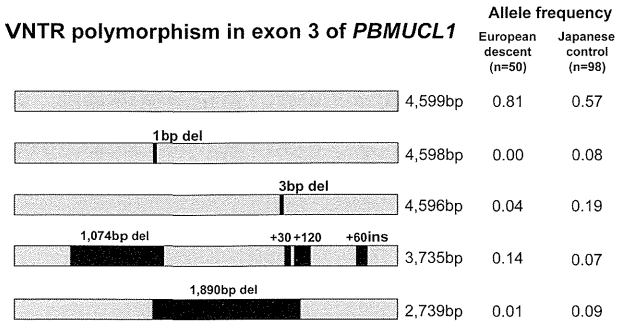


図1 ヨーロッパ系集団(n=50)と日本人健常者(n=98)における*PBMUCL1* exon 3 VNTRのアリル頻度 (exon 3の塩基対数, del欠失, ins挿入)

表1 日本人(健常人, DPB患者)とヨーロッパ系集団で推定されるハプロタイプとその頻度(5%以上推定されるものを示す. ＊で示すものは, 各集団に特異的にみられるハプロタイプである.)

European haplotypes		T57S	T71A	R109G	V120G	I128V	VNTR	N1687D	N1712D	(n=50)
1	*	A	A	G	G	A	4,599bp	A	A	0.167
2		A	A	G	G	G	4,599bp	G	G	0.139
3		A	A	A	G	A	3,735bp	G	G	0.120
4		A	A	G	G	A	4,599bp	G	G	0.117
5	*	T	A	A	G	A	4,599bp	A	A	0.097

Japanese haplotypes										Control (n=98)	DPB (n=108)
H1	*	A	A	A	G	G	4,599bp	G	G	0.230	0.176
H2	*	T	A	A	T	A	4,596bp	A	A	0.161	0.200
H3		A	A	G	G	G	4,599bp	G	G	0.118	0.073
H4	*	A	G	G	G	A	2,709bp	G	G	0.072	0.032
H5		A	A	G	G	A	4,599bp	G	G	0.073	0.083
H6	*	A	A	A	G	A	4,599bp	G	G	0.062	0.061
H7		A	A	A	G	A	3,735bp	G	G	0.056	0.039
H8	*	A	A	A	G	A	4,598bp	G	A	0.056	0.092

たexon 3中央部分が大きく欠失するものは, ヨーロッパ系では頻度が低かった. VNTR多型は人種特異的に分布することが示唆された.

(2) ハプロタイプ構造解析

アジア系集団とヨーロッパ系集団で上記のようにアリル頻度が大きく異なるVNTR多型と, その他の非同義置換を伴うSNPとあわせ, ハプロタイプ構造とその頻度を検討した. その結果, 表1に示すように, 日本人とヨーロッパ人では推定されるハプロタイプとその頻度が大きく異なっていた.

特に, 日本人の疾患感受性の多型と関連するハプロタイプH2, 疾患抵抗性の多型と関連するH4ともにヨーロッパ系集団では認められなかった.

(3) 初代培養ヒト気道上皮細胞における*PBMUCL1* mRNA発現量の検討

手術検体から単離培養した初代培養気道上皮細胞(n=30)の*PBMUCL1* mRNA発現量をpoly(I:C)で24時間刺激時, 非刺激時で検討した. すべての検体で,

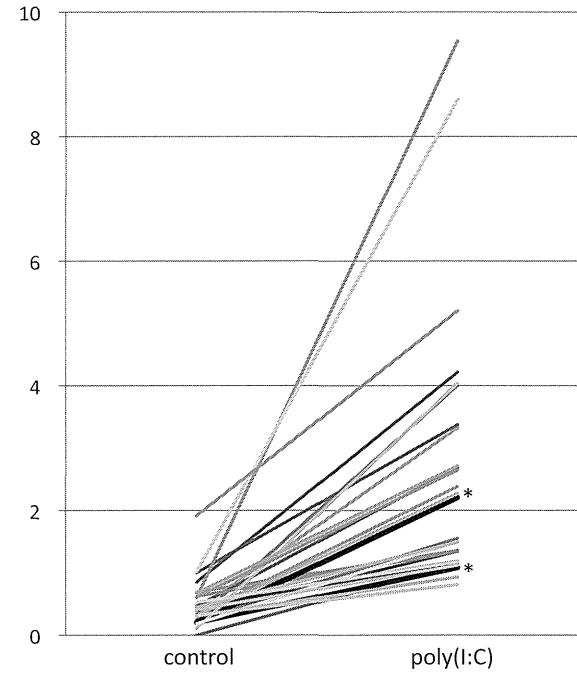


図2 初代培養ヒト気道上皮細胞(n=30)におけるPBMUCL1 mRNA発現量
(図中の太線＊は, 30検体のうち, HLA-B*54:01を有する2検体の発現量を示す.)

刺激時に発現量の増加が認められた. 非刺激時とpoly(I:C)刺激時の発現量の比は, 検体により2倍程度から40倍近くまでと大きな違いがあった(図2).

各検体由来のゲノムDNAを用いてVNTR等の遺伝的多型をタイピングしたが, 日本人に特異的な多型またはハプロタイプを有する細胞と, 日本人とヨーロッパ系集団と共通の多型あるいはハプロタイプを有する細胞とで発現量に違いは認められなかった. 図2には, 例として, DPBと最も強い関連を示すHLA-B*5401を有する2検体での発現量を示す.

D. 考案

DPB疾患感受性候補領域内に新しくクローニングしたムチン遺伝子*PBMUCL1* (*MUC22*)は, HLA領域に存在しており, その遺伝的多型にはHLA型と連鎖不平衡状態にあるものもあり, 人種特異性があることが想定されるが, 今年度の我々の検討で, アジア人とヨーロッパ人で多型およびハプロタイプ頻度が大きく異なることがわかった.

PBMUCL1は, 免疫組織染色によって, 健常肺では弱くしか染まらないが, DPB患者では肥厚した粘膜下腺細胞で強く染まり, また, 遺伝子発現は

poly(I:C)で強く誘導され，何らかの誘導性のメカニズムがDPBにおいて役割を持っているのではないかと考えられる．今年度，日本人の手術検体由来の初代培養ヒト気道上皮細胞30検体を用いた，非刺激時とpoly(I:C)刺激時の*PBMUCL1* mRNA発現量では，日本人特異的なハプロタイプを有する検体での発現量は特に差異がなかった．この遺伝子は，2つの転写開始点を有し，また，中央のエクソンがリピート配列のため，exon4～exon5にリアルタイムPCR用プライマーを設計したため，今回の検討では，*PBMUCL1* mRNA発現量を全体でとらえている．しかし，関連解析で疾患感受性に最も関連したSNPはイントロン2に存在していたため，今後，全体量とあわせ，スプライシングのパターンの違いなどの質的な差異の検討も必要であると考えられた．

E. 結論

DPB疾患感受性候補領域にある*PBMUCL1*の遺伝的多型を，日本人とヨーロッパ系集団で比較したところ，多型の頻度，推定ハプロタイプ頻度ともに，人種間で大きく異なっていた．遺伝子発現量は，多型やハプロタイプによりあまり違わず，疾患に関連する多型の機能的役割については，さらに検討が必要である．

G. 研究発表

1. 論文発表

Kudoh S, Keicho N. Diffuse panbronchiolitis. Clin Chest Med. 2012;33 (2):297-305.

Asano K, Tryka E, Cho JS, Keicho N. Macrolide therapy in chronic inflammatory diseases. Mediators Inflamm. 2012;2012: 692352.

H. 知的財産権の出願・登録状況

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書 籍

著者誌名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版地	出版年	ページ
杉山幸比古	びまん性汎細気管支炎	藤田次郎	抗菌薬の洗濯と使い方 呼吸器科領域	大阪	2012	124-133
坂東政司，杉山幸比古	第6章 肺疾患 5.間質性肺炎についての疑問-診断へのアプローチと治療，効果判定について教えて下さい	藤村昭夫（総編集）	増刊 レジデントノート	東京	2012	249-256
間藤尚子，坂東政司	Ⅱ特発性間質性肺炎を究める 特発性肺線維症以外の特発性間質性肺炎 急性間質性肺炎	滝澤 始	間質性肺炎を究める	東京	2012	203-206
高橋弘毅	間質性肺疾患	門脇孝，永井良三	カラー版内科学	東京	2012	802-805
福田 悠(分担)	特発性間質性肺炎の病態生理(病気の成り立ち)	瀧澤 始	特発性間質性肺炎を究める(メディカルビュー社)	東京	2012	126-130
福田 悠(分担)	第3部．一般的によく見られる組織病理．B.薬剤障害．2.肺．	深山正久，船田信顕，黒田誠	病理と臨床．臨時増刊号(病理解剖マニュアル)(文光堂)	東京	2012	233-239
福田 悠(分担)	代表疾患の病理像	日本呼吸器学会教育委員会	DVDで学ぶ実践呼吸器病学(メディカルフォト)	東京	2012	
日本呼吸器学会薬剤性肺障害の診断・治療の手引き作成委員会編集(分担)			薬剤性肺障害の診断・治療の手引き(メディカルレビュー社)	東京	2012	
杉野圭史，本間 栄(分担)	Stevens-Johnson症候群発症後に高度の閉塞性換気障害を認めた27歳女性．	永井厚志	New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 呼吸器疾患 第2版	東京	2012	245-251
村松陽子，本間 栄(分担)	薬物治療(治療と薬理メカニズム)：N-アセチルシステイン．	滝澤 始	間質性肺炎を究める	東京	2012	150-155
酒井文和	第4章 検査 胸部エックス線検査，CT検査	金沢実，永田真，前野敏孝	呼吸器病学	東京	2012	38-68
高橋正洋，酒井文和	間質性肺炎を究める；胸部CTの読み方	滝沢 始	間質性肺炎を究める	大阪	2012	31-37
酒井文和	検査所見；画像所見	薬剤性肺障害の診断・治療手引き作成委員会(吾妻安良太，金沢実，亀田秀人，楠本昌彦，久保恵し，弦間昭彦，西條康夫，酒井文和，杉山幸比古，巽浩一郎，土肥賢，徳田均，橋本修，服部登，花岡正幸，福田悠	薬剤性肺障害の診断・治療手引き	大阪	2012	
酒井文和	平成23年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務(病理組織標本における石綿小体計測および胸腔鏡所見による認定基準の見直しに関する調査編)報告書	廣島健三	平成23年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務(病理組織標本における石綿小体計測および胸腔鏡所見による認定基準の見直しに関する調査編)報告書	千葉	2012	23-39

著者誌名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版地	出版年	ページ
酒井文和	肺多形細胞癌	酒井文和	知っておくと役に立つまれな呼吸器疾患ケースファイル50	東京	2012	150-154
酒井文和	amyloidosis	酒井文和	知っておくと役に立つまれな呼吸器疾患ケースファイル50	東京	2012	227-231
酒井文和	カポジ肉腫	酒井文和	知っておくと役に立つまれな呼吸器疾患ケースファイル50	東京	2012	164-168
長谷川好規	22.アレルギー(22-4 気管支喘息, 22-5 過敏性肺炎, 22-6 サルコイドーシス)	熊ノ郷 淳 他	免疫学コア講義 改訂3版	南山堂	2012	224-227
長谷川好規	肺癌	山口 徹 他	今日の治療指針 2013	医学書院	2013	298-301
Kitaichi M, Shimizu S, Tamaya M, Takaki M, Inoue Y	Pathology of Hypersensitivity Pneumonitis	Om P Sharma	CLINICAL FOCUS SERIES: Hypersensitivity Pneumonitis	New Delhi, India	2012	22-32
井上義一	特発性肺線維症	山口 徹，北原光夫，福井次矢	「今日の治療指針」2012年版 Vol.54	東京	2012	288-289
井上義一	CASE 25 工務店勤務歴と肺結核の既往があり，労作時呼吸困難を訴えて来院した64歳男性	永井厚志	第2版 New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 呼吸器疾患	東京	2012	233-244
井上義一	リンパ脈管筋腫症	泉 孝英	ガイドライン外来診療2012	東京	2012	446-249
井上義一	支持療法とその意義(肺移植を含む)	滝澤 始	間質性肺炎を究める	東京	2012	163-167
井上義一	サルコイドーシスと鑑別されるべき疾患 3.特発性肺線維症	長井 苑子	最新医学 別冊 新しい診断と医療のABC/呼吸器3 サルコイドーシス	東京	2012	131-142
井上義一	特発性間質性肺炎(IIPs)の概念，定義と新分類	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	83-88
井上義一	特発性非特異性間質性肺炎(idiopathic NSIP)	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	123-131
井上義一，新井徹	特発性リンパ球性間質性肺炎(idiopathic LIP)と未分類IIPs	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	156-162
辻泰祐，杉本親寿，井上義一	undifferentiated connective tissue disease, lung dominant connective tissue disease, その他の膠原病	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	198-201
佐々木由美子，北市正則，井上義一	好酸球性肺炎	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	255-260
井上義一	肺胞蛋白症(pulmonary alveolar proteinosis; PAP)	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	305-311
井上義一	リンパ脈管筋腫症(lymphangioleiomyomatosis; LAM)	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	318-324
杉本親寿，井上義一	ランゲルハンス細胞組織球症	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	312-317

著者誌名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版地	出版年	ページ
竹内奈緒子，井上義一	多中心性キャッスルマン病(multicentric Castleman's disease)に合併した肺硝子様化肉芽腫(pulmonary hyalinizing granuloma)	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	406-409
玉舎学，井上義一，北市正則	若年女性の慢性過敏症肺炎の一例	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	457-460
杉本親寿，北市正則，井上義一	種々の肺病変を認めた喫煙関連びまん性肺疾患の一例	泉 孝英，坂谷 光則，長井 苑子，北市 正則，井上 義一	びまん性肺疾患の臨床 第4版 診断・管理・治療と症例	京都	2012	516-520
西岡安彦	膠原病の肺合併症－検査の基本－ 膠原病の肺合併症	宮坂信之	診療マニュアル		2012	43-51
西岡安彦	間質性肺炎を究める	滝澤始	薬物療法		2012	86-95
谷野功典	特発性器質化肺炎	滝澤始	間質性肺炎を究める	東京	2012	197-202
石井芳樹	特発性肺線維症の治療と管理(安定慢性期) 薬物治療(治療と薬理メカニズム)：副腎皮質ステロイド	滝澤 始	特発性間質性肺炎を究める	東京	2012	156-162
棟方充，本間行彦	厚労省研究班「診断基準」の歴史にみる気腫合併肺線維症	工藤翔二	日本胸部臨床	東京	2012	1188-1194
宇留賀公紀，岸一馬，内藤陽一	Ⅳ治療の進歩 8. 肺扁平上皮癌に対する治療戦略	永井厚志，巽浩一郎，桑野和善，高橋和久	Annual Review 2012 呼吸器	東京	2012	226-234
宇留賀公紀，高谷久史	非侵襲的人工呼吸法	吉澤篤人，杉山温人	レジデントのための呼吸器内科ポケットブック	東京	2012	64-69
花田豪郎，岸 一馬	呼吸機能検査・血液ガスの読み方	滝澤 始	間質性肺炎を究める	東京	2012	43-47
宮本 篤	合併症	滝澤 始	間質性肺炎を究める	東京	2012	79-85
宇留賀公紀，岸一馬	原因疾患へのアプローチ 3 ERでの市中肺炎	大野博司	レジデントノート別冊 救急・ERノート6症候と疾患から迫る！ ERの感染症診療	東京	2012	140-145
宇留賀公紀，黒崎敦子，岸一馬	腫瘍塞栓PTTM	酒井文和	知っておくと役に立つまれな呼吸器関連疾患ケースファイル50	東京	2012	159-163
四十坊典晴，山口哲生	サルコイドーシスの治療薬剤—代替治療薬—	長井苑子	新しい診断と治療のABC 呼吸器3	大阪	2012	172-178
滝澤 始	間質性肺炎の診断と治療を究める：問診と身体所見	滝澤 始	間質性肺炎を究める	東京	2012	18-24
滝澤 始	UCTD		Annual Review呼吸器2012巻	東京	2012	Page113-119
巽浩一郎	労作時息切れを訴え来院した45歳女性	編集：永井厚志	New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 呼吸器疾患[第2版]	日本医事新報社，東京	2012	260-266
巽浩一郎	睡眠時無呼吸症候群	監修：門脇隆，小室一成，宮地良樹	診療ガイドラインUP-TO-DATE 2012-2013	メディカルレビュー社，大阪	2012	337-340
巽浩一郎	各種病態に対する呼吸管理法 2.COPD	編集：日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・日本麻酔科学会合同 呼吸療法認定士認定委員会	新呼吸療法テキスト	アトムス，東京	2012	256-259

著者誌名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版地	出版年	ページ
巽浩一郎	慢性閉塞性肺疾患(肺気腫)	監修:齋藤康	わかりやすい疾患と処方薬の解説 病態・薬物治療編	アークメディア,東京	2012	143-146
Tatsumi K	Persistent Cough-Chronic Cough-Sputum	Health and Labour Sciences Research Grant : Research on the standardization of traditional Japanese medicine promoting integrated medicine	extbook of Traditional Japanese Medicine Part1:Kampo		2012	121-123
巽浩一郎	遷延性咳嗽・慢性咳嗽・喀痰	編集:平成22・23年度 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「総合医療を推進するための日本伝統医学の標準化」研究班」	日本伝統医学テキスト漢方編		2012	62-64
近藤康博,片岡健介,谷口博之	特発性肺線維症における多面的評価	永井厚志,巽浩一郎,桑野和善,高橋和久	Annual Review 呼吸器	東京	2013	131-139
渡辺憲太朗	閉塞性細気管支炎	山口 徹 北原光夫 福井次矢相澤久道	今日の治療指針 5. 呼吸器疾患	東京	2012	54:282-283
渡辺憲太朗	器質化肺炎 診断と治療	福地義之助	呼吸	東京	2012	31:3-8
渡辺憲太朗	CPFEの呼吸機能と循環動態	北村諭,他	医学のあゆみ	東京	2012	241:902-905
Kentaro Watanabe, et al.	Rapid decrease in forced vital capacity in patients with idiopathic pulmonary upper lobe fibrosis	Toshihiro Nukiwa	Respiratory Investigation	Tokyo	2012	50:88-97
Takako Hirota, et al.	Pleuroparenchymal fibroelastosis as a manifestation of chronic lung rejection?	Marc Humbert	European Respiratory Journal	UK	2013	41:243-245.
Taishi Harada, et al.	Prognostic significance of fibroblastic foci in usual interstitial penumonia and non-specific interstitial pneumonia.	Peter Eastwood	Respirology	Australia	2013	18:278-283

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakasone E, Mato N, Nakayama M, Bando M, Sugiyama Y	A case of pulmonary tuberculosis with false negative Quanti FERON® TB-2G test	Kekkaku	87	9-13	2012
高佐顕之，中山雅之，坂東政司，中曽根悦子，水品佳子，平野利勝，右藤智啓，中澤晶子，鈴木恵理，間藤尚子，中屋孝清，細野達也，山沢英明，杉山幸比古	気道異物症例の臨床的特徴−摘出に難渋した症例に関する考察−	気管支学	34	6-10	2012
坂東政司	COPDに合併する肺癌には注意	medicina	49	424-428	2012
杉山幸比古	特集 難治性びまん性肺疾患克服への取り組み 序文	呼と循	60	353-354	2012
坂東政司	特集 難治性びまん性肺疾患克服への取り組み 特発性肺線維症	呼と循	60	385-395	2012
Bando M, Miyazawa T, Shinohara H, Owada T, Terakado M, Sugiyama Y	An epidemiological study of the effect of statin use on airflow limitation in patients with chronic obstructive pulmonary disease	Respirology	17	493-498	2012
中山雅之，坂東政司，関根利江，菊池貴明，伊東紘一，杉山幸比古	COPDにおける身体活動量と栄養状態・肺機能・6分間歩行試験との比較に関する研究	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 呼吸不全に関する調査研究平成23年度研究報告書		167-170	2012
坂東政司	禁煙，50～60歳代でも遅くない	ASPO健康特集	27	1	2012
弦間昭彦，杉山幸比古，高橋和久	今月の問題点【鼎談】肺癌診療の新しい時代	成人病と生活習慣病	42	5-13	2012
Nakayama M, Sugiyama Y, Yamasawa H, Soda M, Mato N, Hosono T, Bando M	Effect of *Hochuekkito* on alveolar macrophage inflammatory responses in hyperglycemic mice	Inflammation	DOI: 10.1007/s10753-012-9441-x		2012
細野達也，坂東政司	呼吸器疾患における利尿薬の使い方	成人病と生活習慣病	42	322-337	2012
杉山幸比古	サルコイドーシス学会および研究班活動	最新医学・別冊 新しい診断と治療のABC 3		24-32	2012
坂東政司	診断の基本	最新医学・別冊 新しい診断と治療のABC 3		63-73	2012
Yamasawa H, Nakayama M, Bando M, Sugiyama Y	Impaired inflammatory responses to multiple Toll-like receptor ligands in alveolar macrophages of streptozotocin-induced diabetic mice	Inflamm Res	61	417-426	2012
間藤尚子，杉山幸比古	特集●高齢化社会と耳鼻咽喉科●高齢者に対する薬物療法 去痰薬の使い方と注意点	JOHNS	28(9)増大号	1475-1478	2012
坂東政司	IPF合併肺癌	呼吸	31	738-746	2012
坂東政司，杉山幸比古	特集COPD：診断と治療の進歩Ⅲ.合併症4.肺癌	日内会誌	101	1586-1593	2021
杉山幸比古	4.DPB 3)現状と治療の問題点	日胸	71	S197-201	2012
杉山幸比古	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の漢方治療最新のエビデンス	医学のあゆみ	242	607-611	2012
黒崎史朗，坂東政司，中山雅之，山沢英明，福嶋敬宜，杉山幸比古	サルコイドーシスの経過中に非ホジキンリンパ腫および肺小細胞癌を発症した1例	日呼吸誌	1	520-525	2012

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
高佐顕之，中山雅之，坂東政司，間藤尚子，中屋孝清，細野達也，山沢英明，杉山幸比古	Löfgren症候群を合併したと考えられた腫瘤型筋サルコイドーシスの1例	日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌	32	113-117	2012
Nakayama M, Nawa T, Chonan T, Endo K, Morikawa S, Bando M, Wada Y, Shioya T, Sugiyama Y, Fukai S	Prevalence of pulmonary arteriovenous malformations as estimated by low-dose thoracic CT screening	Intern Med	51	1677-1681	2012
中屋孝清，中山雅之，草野　彩，大圃美穂，山内浩義，小松　有，平野利勝，間藤尚子，山沢英明，坂東政司，福嶋敬宜，杉山幸比古	器質化肺炎で発症し，ステロイド療法後に再燃したサルコイドーシスの1例	日サ会誌	32	153-159	2012
澤幡美千瑠，小倉高志，杉山幸比古	Ⅷ呼吸器疾患　4.KL-6値上昇および肺活量低下，肺拡散能低下をきたした62歳の女性　間質性肺炎とくに慢性過敏性肺炎	検査と技術	40	1202-1207	2012
杉山幸比古	高齢者と感染症(かぜ症候群，インフルエンザ，肺MAC症)	漢方医学	36	264-7	2012
Kono C, Yamaguchi T, Yamada Y, Uchiyama H, Kono M, Takeuchi M, Sugiyama Y, Azuma A, Kudoh S, Sakurai T, Tatsumi K	Historical changes in epidemiology of diffuse panbronchiolitis	Sarcoicosis Vasc Diffuse Lung Dis	29	19-25	2012
山沢英明，杉山幸比古	分子標的薬-がんから他疾患までの治癒をめざして-	日本臨牀	70	597-601	2012
Mizushina Y, Bando M, Hosono T, Mato N, Nakaya T, Yamasawa H, Hironaka M, Tanaka A, Sugiyama Y	A rare case of asymptomatic diffuse pulmonary ossification detected during a routine health examination	Intern Med	51	2923-27	2012
坂東政司，杉山幸比古	気腫合併肺線維症(CPFE) 1)CPFEの概念	呼吸器内科	22	224-30	2012
酒井文和，野間恵之，審良正則，上甲剛，藤本公則，井上義一，村山貞之，杉山幸比古	蜂巣肺CT診断図譜：蜂巣肺CT診断の一致度に関する調査結果から	日呼吸誌	1	537-40	2012
坂東政司，杉山幸比古	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	Pharma Tribune	4	13-22	2012
水品佳子，大竹俊哉，坂東政司，磯田憲夫，遠藤俊輔，杉山幸比古	肝細胞癌を合併した原発性肺癌の1例-肝転移との鑑別に関する考察を含めて-	肺癌	52	884-889	2012
後藤　元，杉山幸比古，二木芳人	鼎談　肺炎診療の新しい潮流	成人病と生活習慣病	42	1271-1280	2012
黒崎史朗，坂東政司，武村民子，間藤尚子，中屋孝清，杉山幸比古	特発性間質性肺炎との鑑別を要し，胸腔鏡下肺生検にて診断しえたサルコイドーシスの1例	日呼吸誌	2	24-28	2013
Shigemura M, Nasuhara Y, Konno S, Shimizu C, Matsuno K, Yamguchi E, Nishimura M.	Effects of molecular structural variants on serum Krebs von den Lungen-6 levels in sarcoidosis.	J Transl Med			in press
Hattori T, Konno S, Shigemura M, Matsuno K, Shimizu C, Shigehara K, Shijubo N, Hizawa N, Yamaguchi E, Nishimura M.	Total serum IgE levels and atopic status in patients with sarcoidosis.	Allergy asthma Proc	33	Apr-90	2012
Takahashi M, Yamada G, Koba H, Takahashi H	Classification of centrilobular emphysema based on CT-pathologic correlations	Open Respir Med J	6	155-159	2012
Saito A, Ariki S, Sohma H, Nishitani C, Inoue K, Ebata N, Takahashi M, Hasegawa Y, Kuronuma K, Takahashi H, Kuroki Y	Pulmonary surfactant protein A protects lung epithelium from cytotoxicity of human β-defensin 3.	J Biol Chem	287	15034-43	2012

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hayashi N, Chiba H, Kuronuma K, Go S, Hasegawa Y, Takahashi M, Gasa S, Watanabe A, Hasegawa T, Kuroki Y, Inokuchi J, Takahashi H.	Detection of N-glycolyated gangliosides in non-small-cell lung cancer using GMR8 monoclonal antibody.	Cancer Sci			in press
大塚満雄，梅田泰淳，高橋弘毅	肺サーファクタント蛋白質への喫煙の影響	呼吸器内科	22	252-256	2012
千葉弘文，夏井坂元基，高橋弘毅	【間質性肺疾患Up-To-Date】北海道study-はじめて明らかになった特発性肺線維症の疫学	THE LUNG perspectives	20	243-245	2012
Ohta H, Chiba S, Ebina M, Furuse M, Nukiwa T.	Altered expression of tight junction molecules in alveolar septa in lung injury and fibrosis.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol	302	L193-205	2012
Yamada S, Shinya K, Takada A, Ito T, Suzuki T, Suzuki Y, Le QM, Ebina M, Kasai N, Kida H, Horimoto T, Rivailler P, Chen LM, Donis RO, Kawaoka Y.	Adaptation of a duck influenza A virus in quail.	J Virol	86	1411-20	2012
Ohashi K, Sato A, Takada T, Arai T, Nei T, Kasahara Y, Motoi N, Hojo M, Urano S, Ishii H, Yokoba M, Eda R, Nakayama H, Nasuhara Y, Tsuchihashi Y, Kaneko C, Kanazawa H, Ebina M, Yamaguchi E, Kirchner J, Inoue Y, Nakata K, Tazawa R.	Direct evidence that GM-CSF inhalation improves lung clearance in pulmonary alveolar proteinosis.	Respir Med	106	284-93	2012
Ohkouchi S, Block GJ, Katsha AM, Kanehira M, Ebina M, Kikuchi T, Saijo Y, Nukiwa T, Prockop DJ.	Mesenchymal stromal cells protect cancer cells from ROS-induced apoptosis and enhance the Warburg effect by secreting STC1.	Mol Ther	20	417-23	2012
Satoh H, Saito R, Hisata S, Shiihara J, Taniuchi S, Nakamura Y, Nukiwa T, Ebina M, Sasano H.	An ectopic ACTH-producing small cell lung carcinoma associated with enhanced corticosteroid biosynthesis in the peritumoral areas of adrenal metastasis.	Lung Cancer	76	486-90	2012
Ohashi K, Sato A, Takada T, Arai T, Kasahara Y, Hojo M, Nei T, Nakayama H, Motoi N, Urano S, Eda R, Yokoba M, Tsuchihashi Y, Nasuhara Y, Ishii H, Ebina M, Yamaguchi E, Inoue Y, Nakata K, Tazawa R.	Reduced GM-CSF autoantibody in improved lung of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis.	Eur Respir J	39	777-80	2012
Chiba S, Ohta H, Abe K, Hisata S, Ohkouchi S, Hoshikawa Y, Kondo T, Ebina M.	The Diagnostic Value of the Interstitial Biomarkers KL-6 and SP-D for the Degree of Fibrosis in Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema.	Pulm Med	Epub 2012 Feb 28.		2012
Wong WF, Kohu K, Nakamura A, Ebina M, Kikuchi T, Tazawa R, Tanaka K, Kon S, Funaki T, Sugahara-Tobinai A, Looi CY, Endo S, Funayama R, Kurokawa M, Habu S, Ishii N, Fukumoto M, Nakata K, Takai T, Satake M.	Runx1 deficiency in CD4+ T cells causes fatal autoimmune inflammatory lung disease due to spontaneous hyperactivation of cells.	J Immunol	188	5408-20	2012
Satoh H, Tazawa R, Sakakibara T, Ohkouchi S, Ebina M, Miki M, Nakata K, Nukiwa T.	Bilateral peripheral infiltrates refractory to immunosuppressants were diagnosed as autoimmune pulmonary alveolar proteinosis and improved by inhalation of granulocyte/macrophage-colony stimulating factor.	Intern Med	51	1737-42	2012
Kobayashi M, Miki Y, Ebina M, Abe K, Mori K, Narumi S, Suzuki T, Sato I, Maemondo M, Endo C, Inoue A, Kumamoto H, Kondo T, Yamada-Okabe H, Nukiwa T, Sasano H.	Carcinoembryonic antigen-related cell adhesion molecules as surrogate markers for EGFR inhibitor sensitivity in human lung adenocarcinoma.	Br J Cancer	107	1745-53	2012

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ohkouchi S, Ebina M, Kamei K, Moriyama H, Tamai T, Shibuya R, Ichinose M, Nukiwa T.	Fatal acute interstitial pneumonia in a worker making chips from wooden debris generated by the Great East Japan earthquake and tsunami.	Respir Investig	50	129-34	2012
Okamoto T, Miyazaki Y, Shirahama R, Tamaoka M, Inase N	Proteome analysis of bronchoalveolar lavage fluid in chronic hypersensitivity pneumonitis.	Allergol Int	61	83-92	2012
Furusawa H, Suzuki Y, Miyazaki Y, Inase N, Eishi Y	Th1 and Th17 immune responses to viable propionibacterium acnes in patients with sarcoidosis.	Respir Investig	50	104-9	2012
Chiba S, Jinta T, Chohnabayashi N, Fujie T, Sumi Y, Inase N	Bronchiolitis obliterans organising pneumonia syndrome presenting with neutrophilia in bronchoalveolar lavage fluid after breast-conserving therapy.	BMJ Case Reports Mar	doi:pii: bcr0920114857. 10.1136/ bcr.09.2011.4857		2012
Abe S, Azuma A, Mukae H, Ogura T, Taniguchi H, Bando M, Sugiyama Y.	Polymyxin B-immobilized fiber column (PMX) treatment for idiopathic pulmonary fibrosis with acute exacerbation: a multicenter retrospective analysis.	Intern Med	51(12)	1487-91	2012
Tagami T, Sawabe M, Kushimoto S, Marik PE, Mieno MN, Kawaguchi T, Kusakabe T, Tosa R, Yokota H, Fukuda Y	Quantitative diagnosis of diffuse alveolar damage using extravascular lung water.	Critical Care Medicine			in press
Terasaki M, Terasaki Y, Wakamatsu K, Takahashi Y, Kunugi S, Urushiyama H, Sakanushi A, Okubo K, Fukuda Y	A mucin-rich variant of salivary duct carcinoma with a prominent mucinous component, a tumor that mimics mucinous adenocarcinoma: a case report	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology			in press
福田 悠	間質性肺炎と肺気腫における改築とII型肺胞上皮細胞の関わり	分子呼吸器病			in press
寺崎泰弘，福田 悠	肺・呼吸器領域とIgG4関連疾患	東京医学社	73(5)	681-685	2012
寺崎泰弘，寺崎美佳，一門和也，竹屋元裕，福田悠	呼吸器疾患における病理形態像解析：びまん性肺粒状網状影を呈するMicronodular pneumocyte hyperplasia (MNPH)	日医大医会誌	9(2)		in press
福田 悠	新ガイドラインからみたUIPの病理診断	日本胸部臨床			in press
福田 悠，漆山博和，寺崎美佳，高橋美紀子，功刀しのぶ，寺崎泰弘	特発性肺線維症急性増悪の病理．特集：特発性間質性肺炎−この10年の進歩と今後の展望	日本胸部臨床			in press
Homma S, Azuma A, Taniguchi H, Ogura T, Mochiduki Y, Sugiyama Y, Nakata K, Yoshimura K, TakeuchiM, Kudoh S, the Japan NAC clinical study group	Efficacy of inhaled N-acetylcysteine monotherapy in patients with early stage idiopathic pulmonary fibrosis.	Respirology	17	467-477	2012
Takai Y, Yamashiro Y, Satoh D, Isobe K, Sakamoto S, Homma S	Cephalometric assessment of craniofacial morphology in Japanese male patients with obstructive sleep apnea–hypopnea syndrome.	Sleep and Biological Rhythms	10	162–168	2012
Isobe K, Hata Y, Kobayashi K, Hirota N, Sato K, Sano G, Sugino K, Sakamoto S, Takai Y, Shibuya K, Takagi K, Homma S	Clinical significance of circulating tumor cells and free DNA in non-small cell lung cancer.	Anticancer Res	32	3339-3344	2012
Sakamoto S, Kikuchi N, Ichikawa A, Sano G, Satoh K, Sugino K, Takai Y, Shibuya K, Homma S	Everolimus-induced pneumonitis after drug-eluting stent implantation: a case report.	Cardiovasc Intervent Radiol	DOI:10.1007/ s00270-012-0477-y		2012
Isobe K, Hata Y, Sakaguchi S, Sato F, Takahashi S, Sato K, Sano G, Sugino K, Sakamoto S, Takai Y, Mitsuda A, Terahara A, Shibuya K, Takagi K, Homma S	Patological response and prognosis of stage III non-small cell lung cancer patients treated with induction chemoradiation.	Asia-Pac J Clin Oncol	8	260-266	2012

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Keishi Sugino, Masahiro Kobayashi, Fumiaki Ishida, Naoshi Kikuchi, Nao Hirota, Keita Sato, Go Sano, Kazutoshi Isobe, Susumu Sakamoto, Yujiro Takai, Nobuyuki Shiraga, Sakae Homma	Xenon Ventilation Imaging Using Dual-Energy Computed Tomography in Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema.	SOMATOM Sessions (SIEMENS)	30	50-51	2012
Sugino K, Gocho K, Ishida F, Kikuchi N, Hirota N, Sato K, Sano G, Isobe K, Sakamoto S, Takai Y, Hata Y, Shibuya K, Uekusa T, Kurosaki A, Homma S	Acquired hemophilia A associated with IgG4-related lung disease in a patient with autoimmune pancreatitis.	Intern Med	51	3151-3154	2012
Homma S, Suzuki A, Sato K	Pulmonary involvement in ANCA-associated vasculitis from the view of pulmonologist.	Clin Exp Nephrol	DOI:10.1007/ s10157-012-0710-7		2012
伊藤貴文，杉野圭史，坂本　晋，黒崎敦子，植草利公，本間　栄	気腫合併特発性肺線維症の臨床病理学的特徴.	日呼吸会誌	1	182-189	2012
太田宏樹，佐藤敬太，磯部和順，秦美暢，渋谷和俊，本間　栄	肝転移を契機に診断された線維形成型悪性胸膜中皮腫の1例.	日呼吸会誌	1	251-255	2012
高井雄二郎，阪口真之，杉野圭史，佐藤敬太，磯部和順，坂本　晋，高木啓吾，本間　栄	看護学科2年生の3年間における喫煙，社会的ニコチン依存度および受動喫煙の推移.	日本禁煙会誌	7	76-82	2012
磯部和順，秦　美暢，佐藤敬太，佐野　剛，杉野圭史，坂本　晋，高井雄二郎，渋谷和俊，高木啓吾，本間　栄	上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者における耐性獲得時のT790M変異検索の有用性.	肺癌	52	279-283	2012
仲村泰彦，佐藤敬太，磯部和順，杉野圭史，羽鳥　努，本間　栄	pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM)を合併した肺扁平上皮癌の1剖検例.	肺癌	52	402-408	2012
杉野圭史，本間　栄	呼吸器疾患に伴う肺高血圧症のマネジメント-3)特発性間質性肺炎に伴う肺高血圧症-.	呼吸器内科	21	193-200	2012
杉野圭史，本間　栄	気腫合併肺線維症：古い概念，新たな理解	THE LUNG perspectives,	20	266-269	2012
佐野　剛，杉野圭史，岩田基秀，関谷宗之，石井真由美，根本哲生，黒崎敦子，植草利公，渋谷和俊，本間　栄	EM, CAMの長期投与が無効であった難治性DPBのVATS例.	Therapeutic Research	33	15-18	2012
佐藤敬太，本間　栄	膠原病に伴う気道病変1)関節リウマチ	日胸	71	S221-S225	2012
Sakai F,Tominaga J, Kaga A, Usui Y, Kanazawa M, Ogura T, Yanagawa N, Takemura T	Review: Imaging Diagnosis of Interstitial Pneumonia with Emphysema (Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema)	Pulmonary Medicine	doi: 10.1155/2012/ 816541		2012
楊川哲代，酒井文和，鎌田憲子	結核症と非結核性抗酸菌症；HIV感染者の肺結核症，非結核性抗酸菌症	画像診断	32(2)	202-208	2012
Iwasawa T, Ogura T, Sakai F, Kanauchi T, Komagata T, Baba T, Gotoh T, Morita S, Yazawa T, Inoue T	CT analysis of the effect of pirfenidone in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	Eur J Radiol	e-pub ahead print 2012.3.30		2012
小倉高志，酒井文和	画像診断最近の進歩：呼吸器感染症の画像診断	呼吸器内科	21(3)	254-262	2012
長谷川瑞枝，酒井文和	重症呼吸器感染症に対する集学的療法の方向性；重症感染症治療における画像診断の役割	呼吸器内科	21(4)	322-329	2012
酒井文和	循環器疾患と呼吸器疾患：循環器科医はどこまで胸部単純写真を読むべきか	Herat View	16(3)	232-240	2012
長谷川瑞江，酒井文和	画像診断最近の進歩：高分解能CTによる二次小葉のみかた	呼吸器内科	21(3)	283-289	2012
長谷川瑞江，酒井　文和	感染症の画像診断;胸部感染症	臨床画像	28(4)	158-165	2012